

令和7年（2025年）の磐梯山の火山活動

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山性地震は、12月に一時的に増加しましたが、その他の期間は概ね少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しています。その他の火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○ 2025年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～10、図11-①）

剣ヶ峯監視カメラによる観測では、山体北側火口壁からの噴気の高さは一時的に100mを観測しましたが、その他の期間は80m以下で経過し、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

2月に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測と比較して、沼ノ平、山体北側火口壁噴気地帯及び中ノ湯の噴気と地熱域に特段の変化は認められませんでした。

また、5月に実施した現地調査では、山体北側火口壁噴気地帯の地熱域及び噴気の状況に特段の変化や異常は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図11-②～⑤、図12～15）

今期間、火山性地震は概ね少ない状態で経過していましたが、12月1日に山頂付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震の前後で火山活動に特段の変化は認められず、その後、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過し、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

火山性微動が4月に2回発生しました。いずれの火山性微動も、最大振幅や継続時間はこれまで観測したものと比べると同程度の値でした。火山性微動の発生に伴うその他の観測データの変化は認められませんでした。

低周波地震は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図11-⑥、図16、図18）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況 (10月10日)

- ・剣ヶ峯監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・Y-○は山体北側火口壁の噴気の場所を示す記号です。

噴気の高さは100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

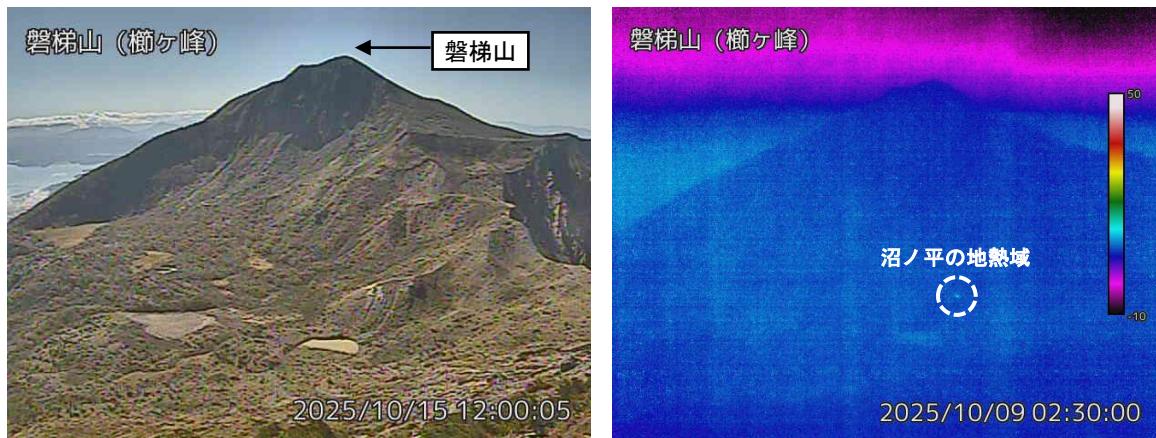


図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況 (10月15日) と地表面温度分布 (10月9日)

- ・櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。

噴気は認められませんでした。

沼ノ平の地熱域（白破線）に特段の変化は認められませんでした。

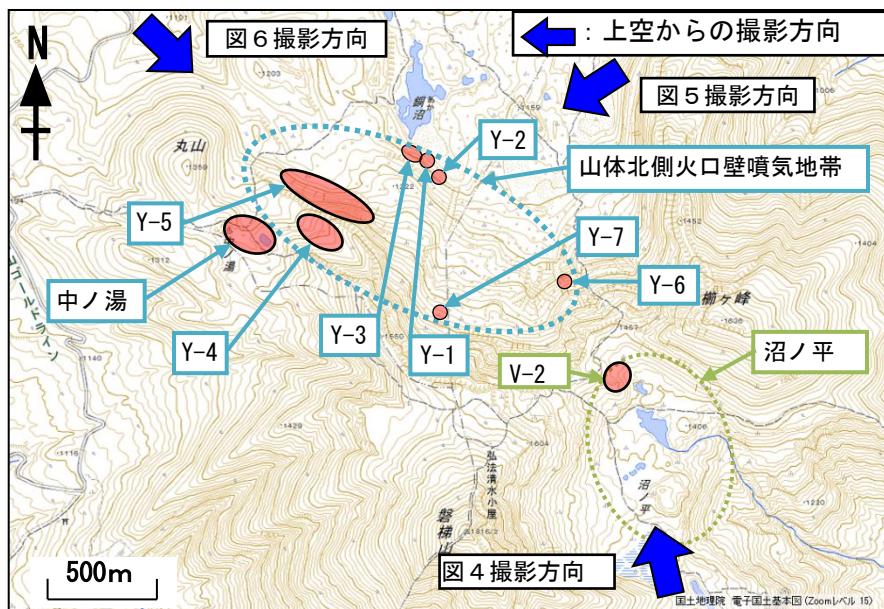


図3 磐梯山 噴気地熱域の分布及び上空からの写真と地表面温度分布撮影方向
※赤丸の領域は、噴気地熱域を示します。

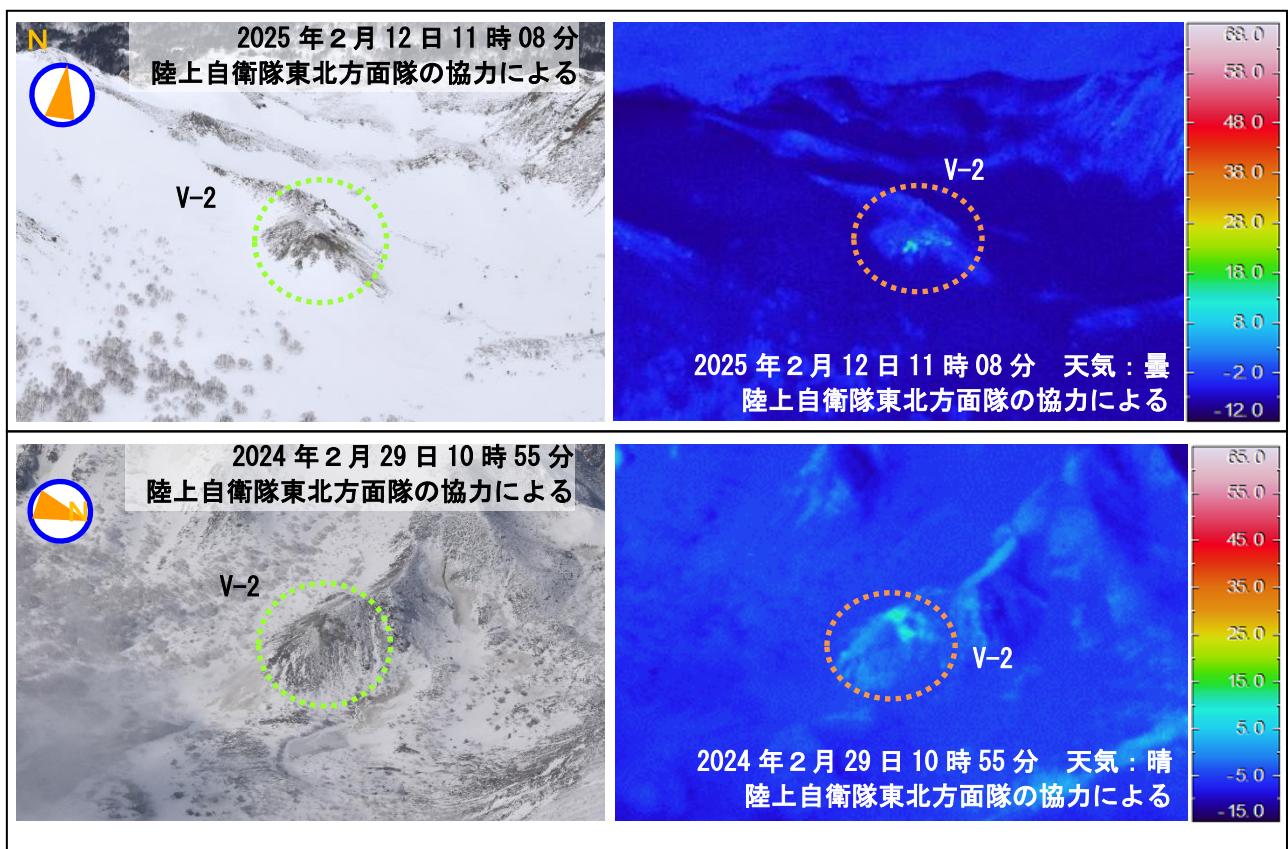


図4 磐梯山 上空から撮影した沼ノ平(V-2)の状況と地表面温度分布
※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

噴気は確認されず、地熱域（破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。

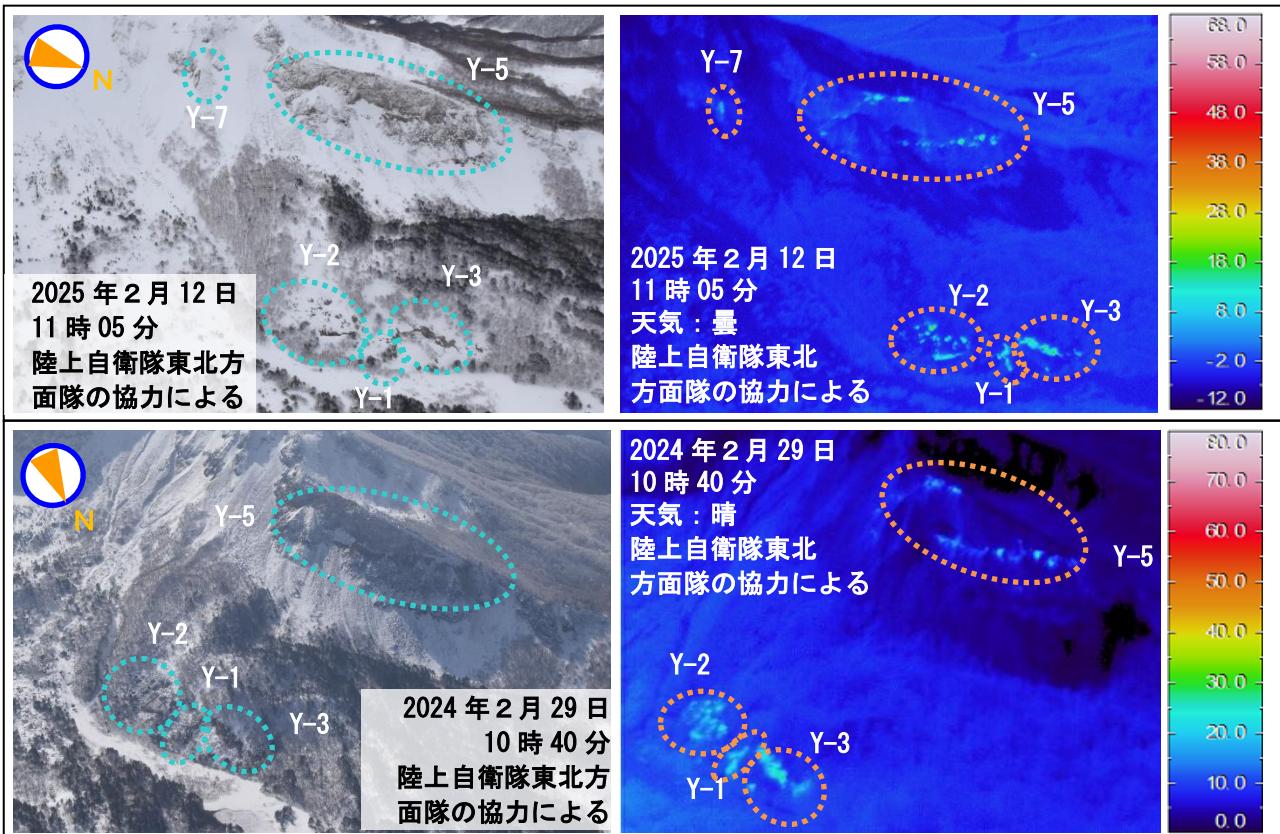


図5 磐梯山 上空から撮影した山体北側火口壁噴気地帯 (Y-1、2、3、5、7) の状況と地表面温度分布
※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

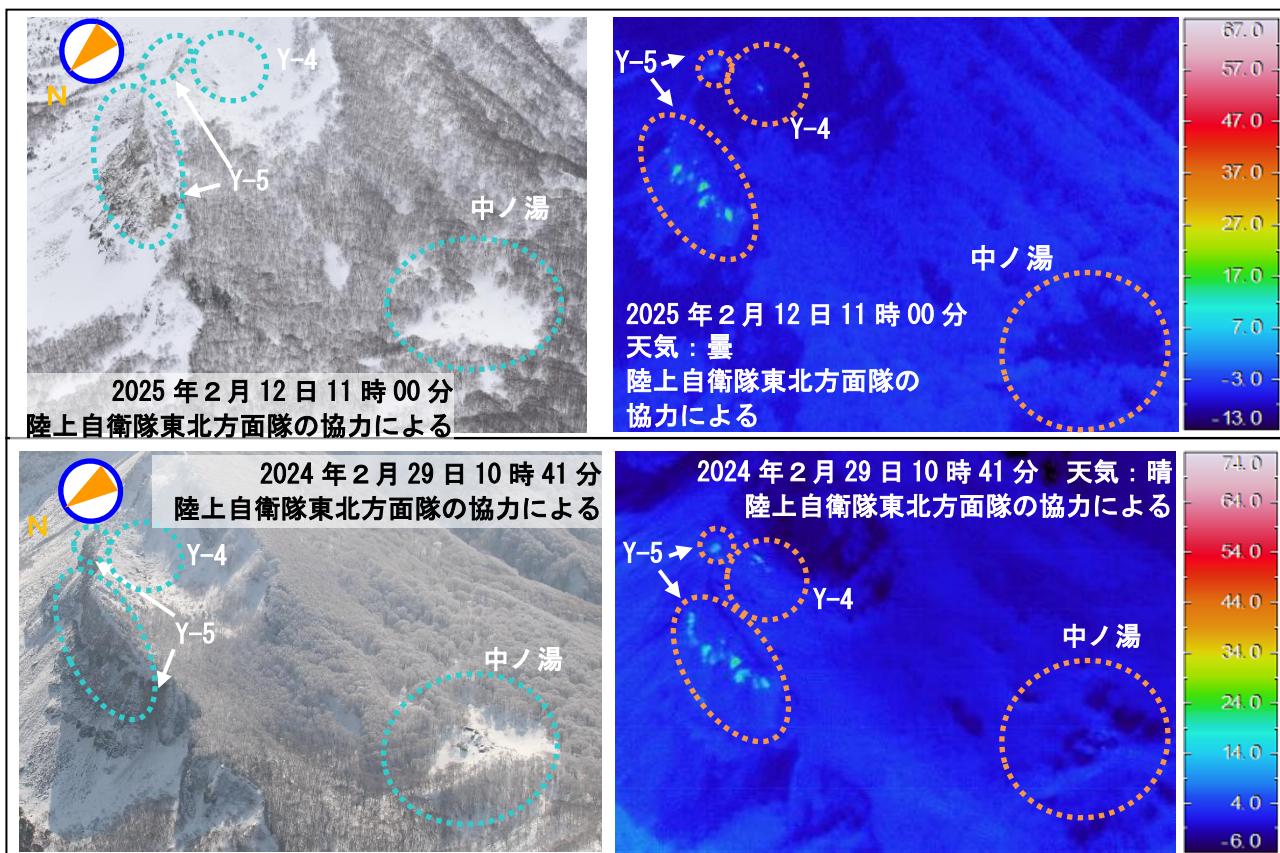


図6 磐梯山 上空から撮影した山体北側火口壁噴気地帯 (Y-4、Y-5) 及び中ノ湯の状況と地表面温度分布
※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

噴気は確認されず、Y-4、Y-5及び中ノ湯の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

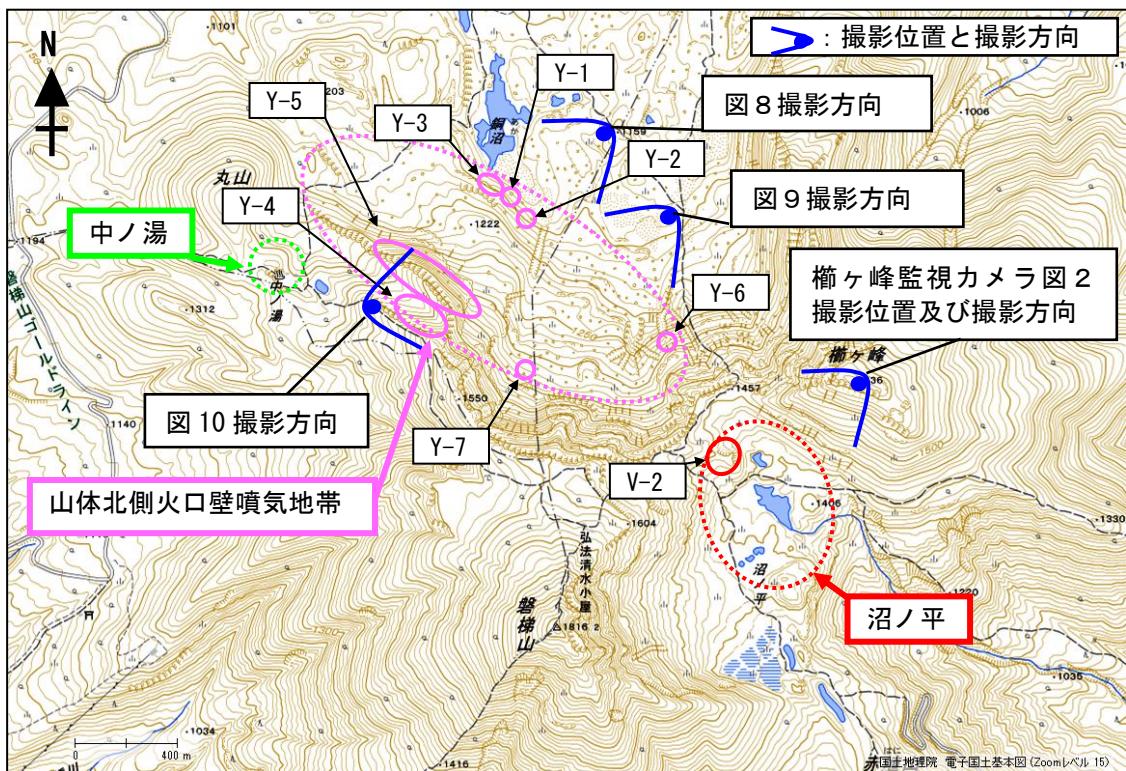


図7 磐梯山 噴気地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

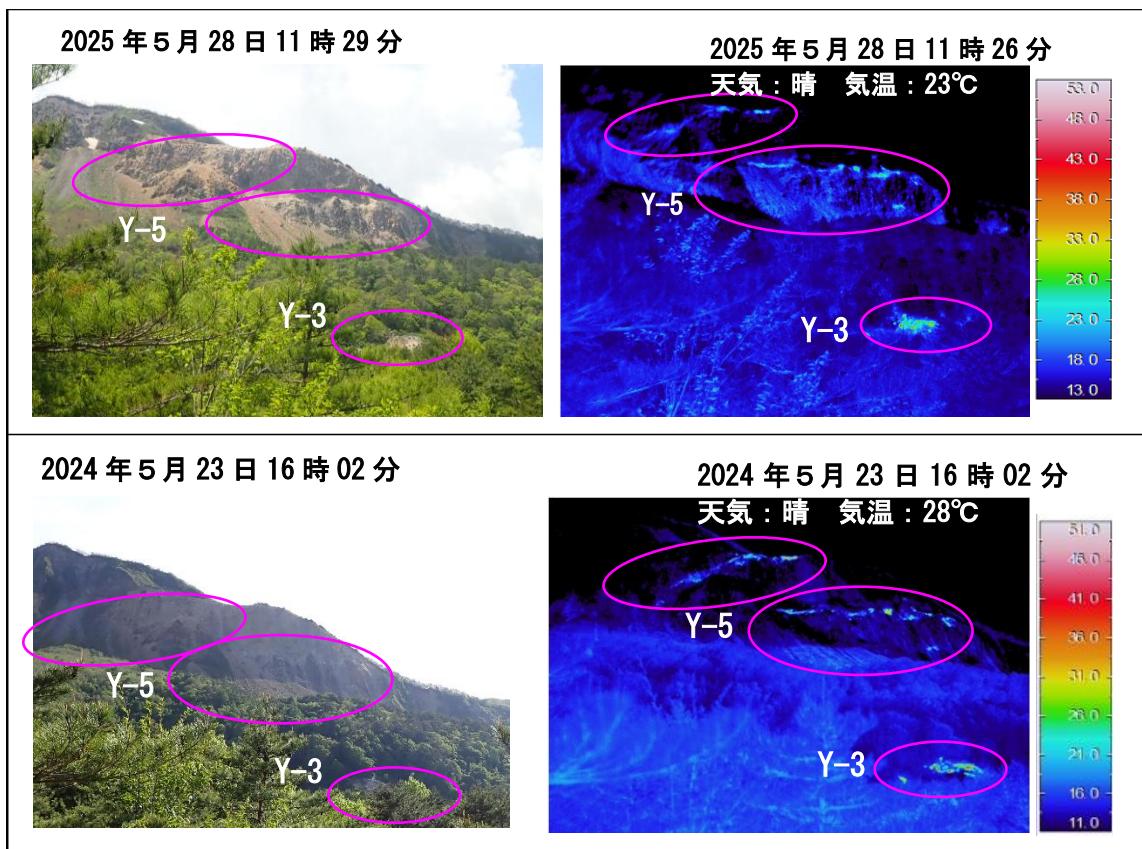


図8 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯 (Y-3, Y-5) の状況 (左) と地表面温度分布 (右)

- 撮影位置と地熱域の間の草木の影響で、地熱域の一部が見えなくなっています。
- ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯 (Y-3, Y-5) の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした (桃色丸)。

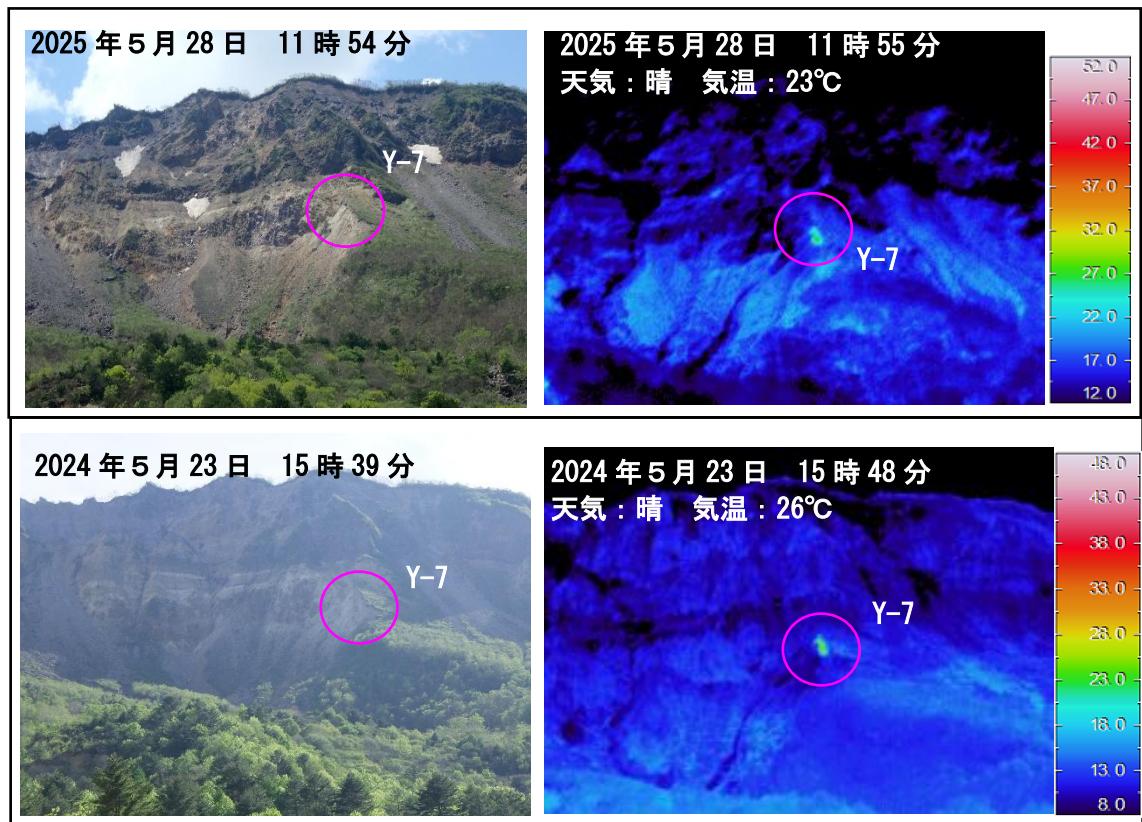


図9 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯（Y-7）の状況（左）と地表面温度分布（右）
※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯（Y-7）の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした（桃色丸）。

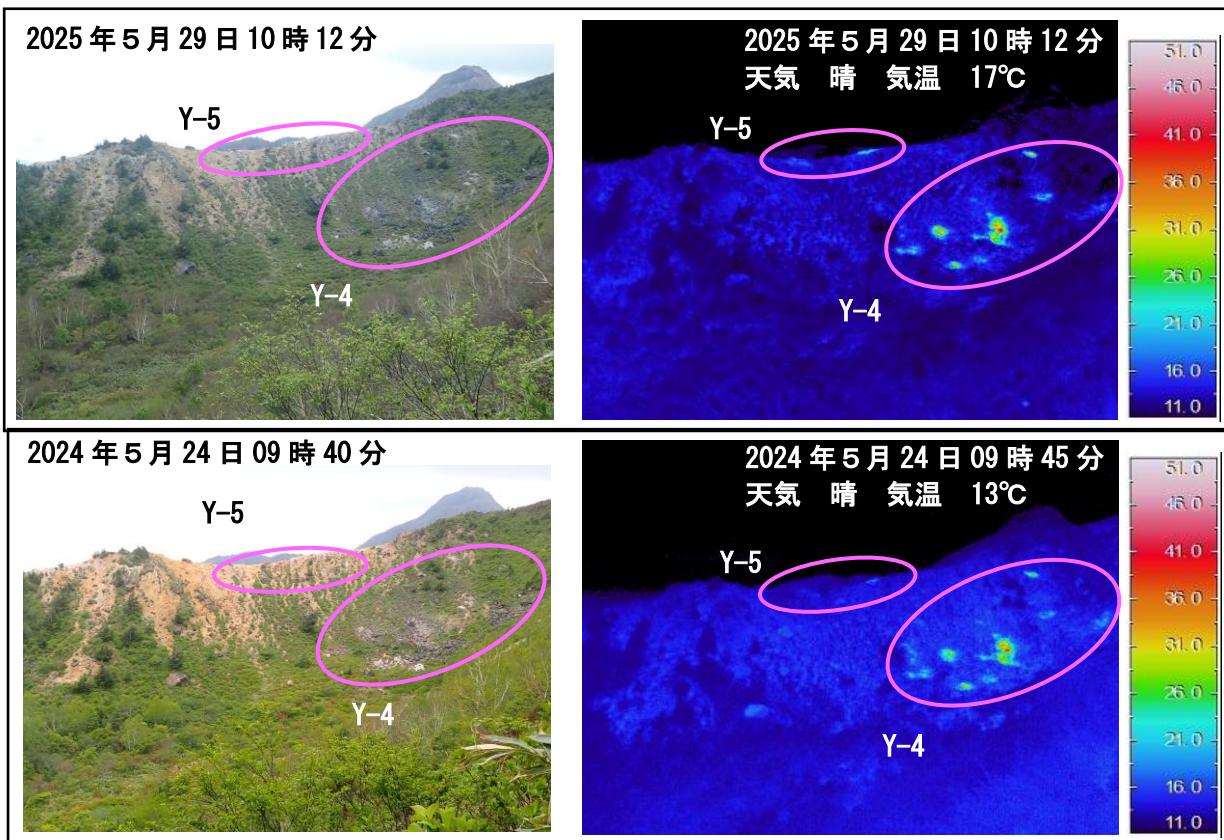


図10 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯（Y-4、Y-5）の状況（左）と地表面温度分布（右）
※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯（Y-4、Y-5）の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした（桃色丸）。

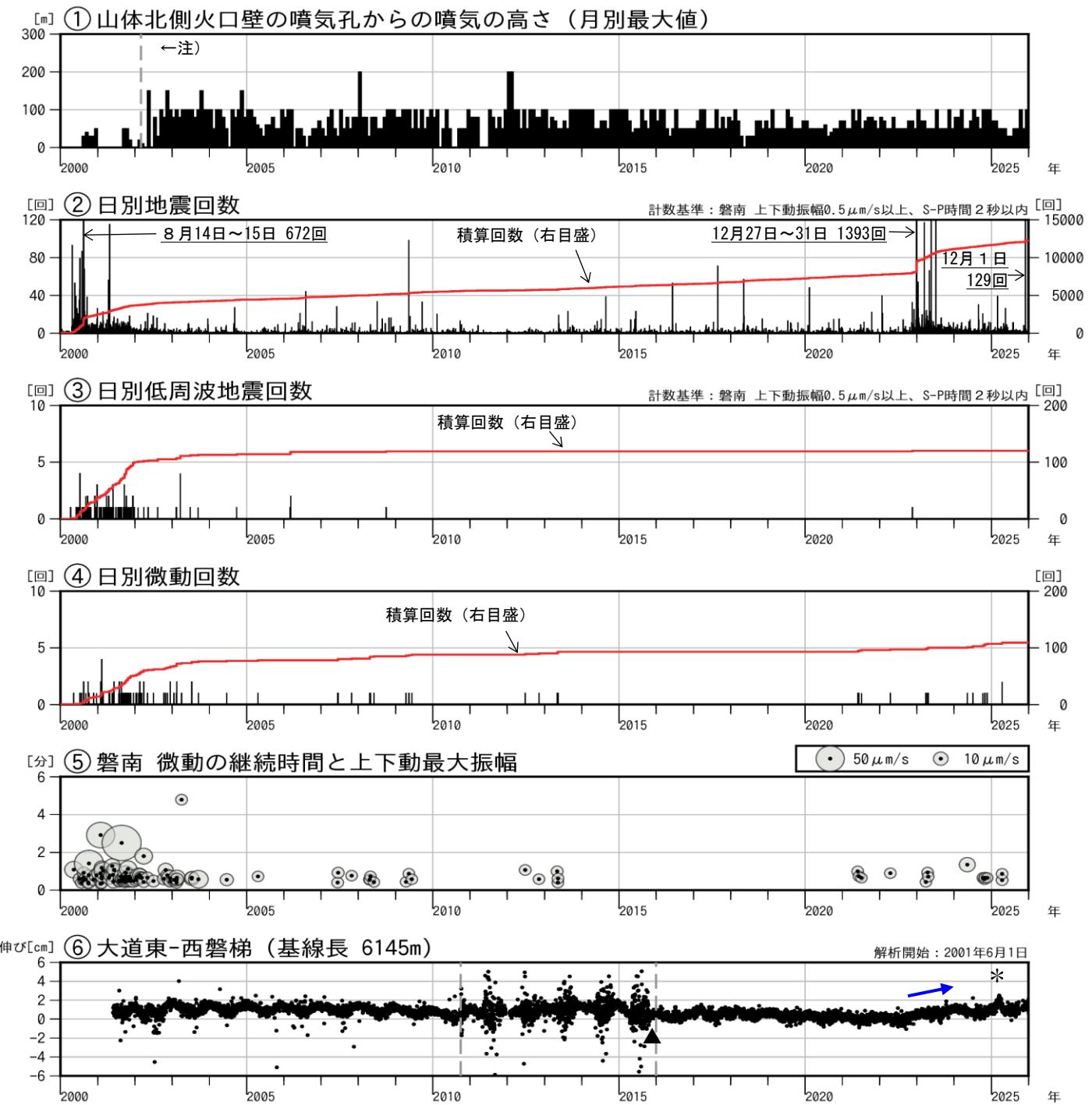


図 11 磐梯山 火山活動経過図 (2000年1月～2025年12月)

- ⑥は図 18 の GNSS 基線⑥に対応しています。
- 2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に、解析方法を変更しています (⑥)。

注) 2002 年 2 月以前は定時 (09 時、15 時) 及び隨時観測による高さ、2002 年 3 月以後は 24 時間観測による高さです。

▲ : 大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました (⑥)。

* : 西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます (⑥)。

今期間、火山性地震は概ね少ない状態で経過していましたが、12月1日に山頂付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震の前後で火山活動に特段の変化は認められず、その後、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過し、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

火山性微動が4月に2回観測されました。いずれの火山性微動も最大振幅や継続時間は、これまで観測したものと比べると同程度の値でした。

低周波地震は観測されませんでした。

GNSS 連続観測では、2022年後半から2023年10月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが (青矢印)、その後火山活動によると考えられる変化は認められません。

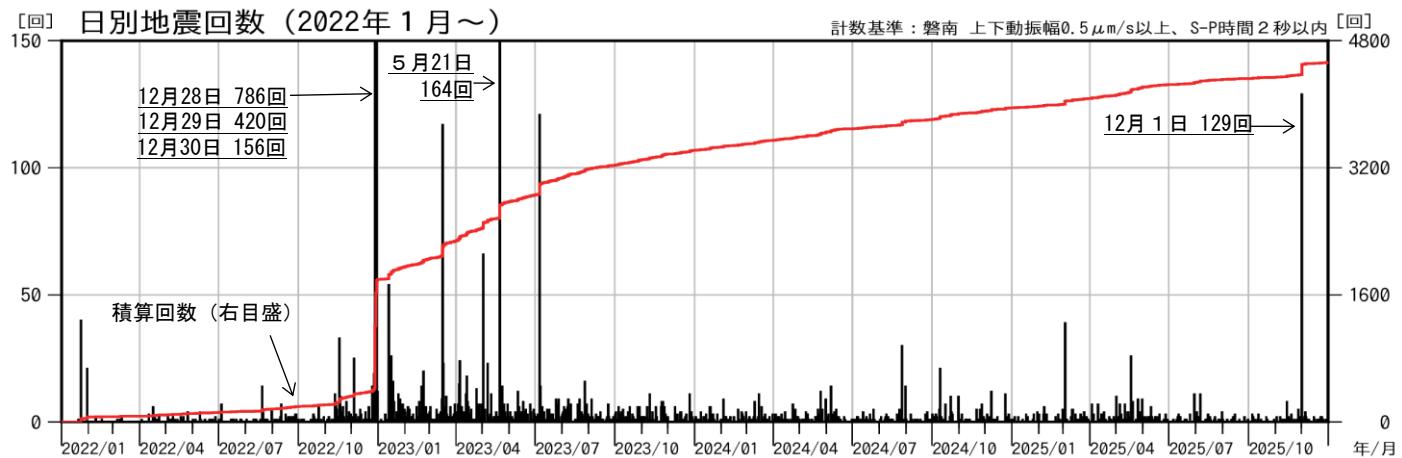
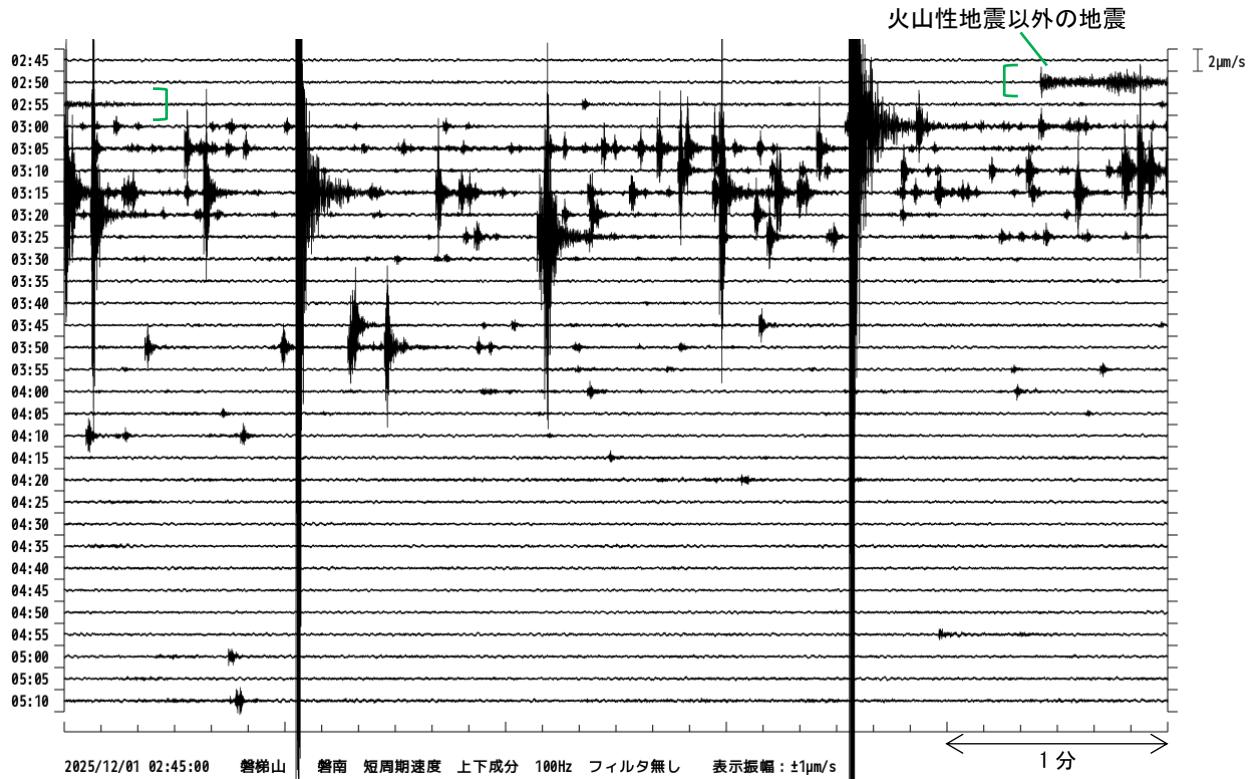


図 12 磐梯山 地震回数 (2022年1月～2025年12月)

12月1日に山頂付近を震源とする地震が一時的に増加し、日回数は129回となりました。この地震の前後で火山活動に特段の変化は認められず、その後、火山性地震は少ない状態で経過しました。

なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過し、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

図 13 磐梯山 磐南観測点（上下成分）での火山性地震の発生状況
(2025年12月1日02時45分～05時15分)

12月1日03時頃から05時頃にかけて火山性地震が増加し、日回数は129回となりました。震源は山頂付近の深さ2km付近と推定されます。この地震の前後で火山活動に特段の変化は認められませんでした。

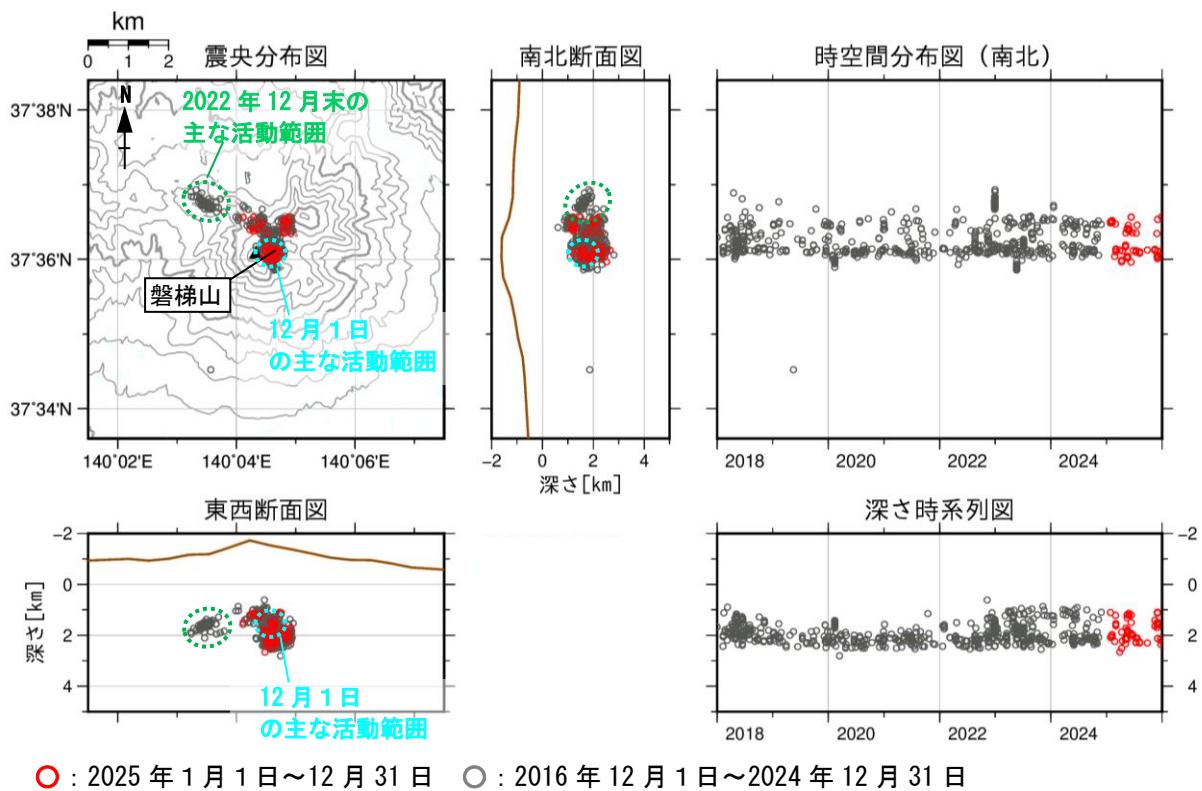
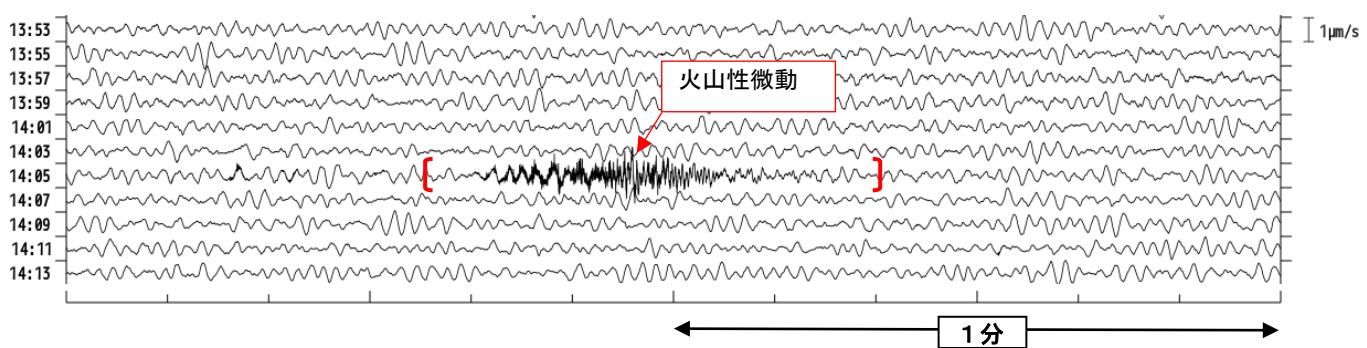


図 14 磐梯山 地震活動 (2016年12月～2025年12月)

今期間、震源が求まった火山性地震は山頂付近及び山頂の北の深さ約1kmから2kmの領域で発生しました。12月に一時的に増加した火山性地震の震源は、震源未決定のものも含め、山頂付近の深さ2km付近と推定されます。

2022年12月末に活発な地震活動がみられた山頂の北西約2km、深さ約1kmから2kmの領域では、今期間に震源が求まった火山性地震はなく、地震活動は低調に経過しました。

図 15 磐梯山 裏磐梯高原観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2025年4月16日13時53分～14時15分)

・〔 〕は火山性微動の発生時を示します。

火山性微動が4月に2回発生しました。最大振幅はこれまで観測した火山性微動と比べて、特段大きいものではありませんでした（図11-⑤）。これらの火山性微動の発生前後で火山活動に特段の変化は認められませんでした。

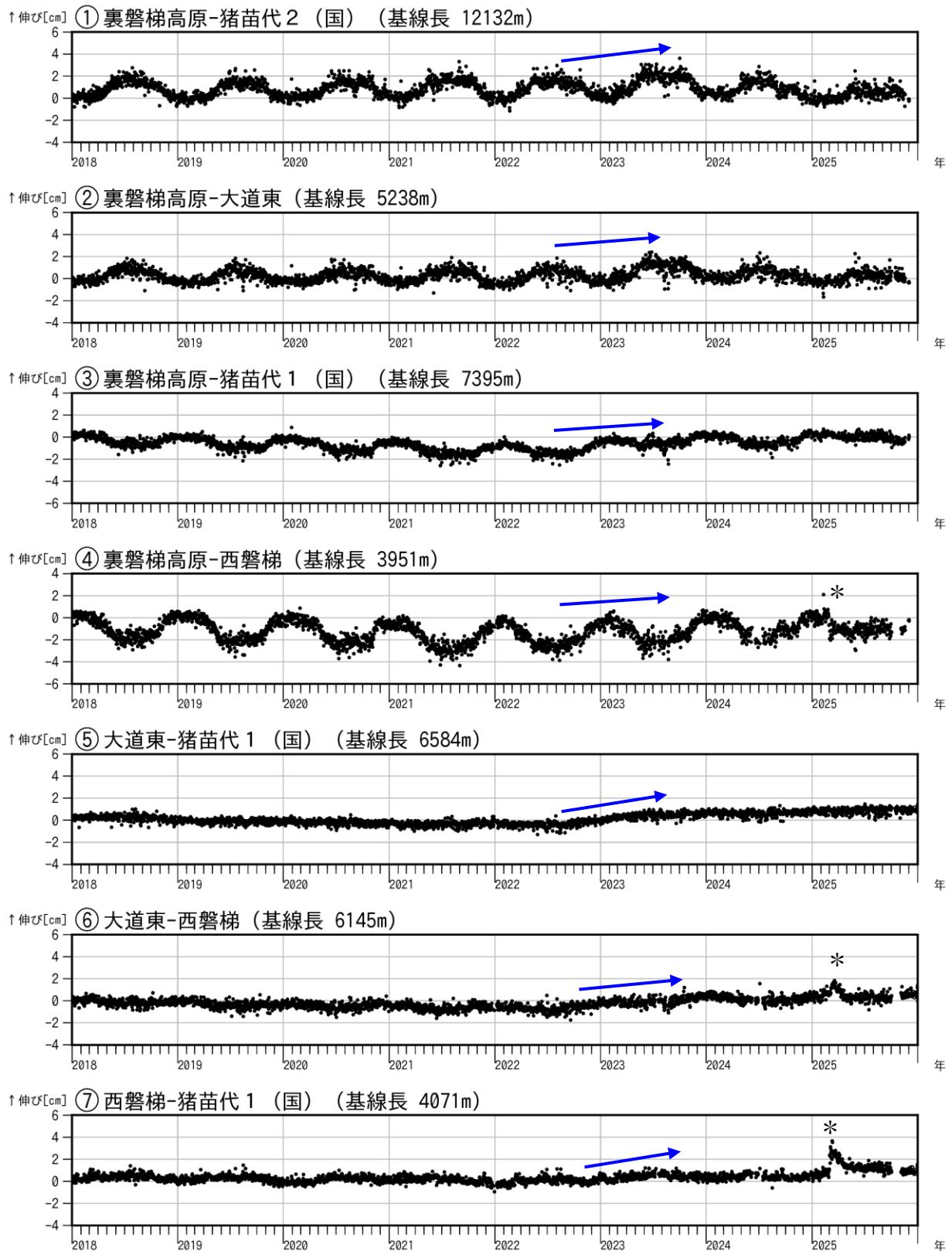


図 16 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2018年1月～2025年12月)

- ①～⑦は図 18 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
- 空白部分は欠測を表しています。
- (国) は国土地理院の観測点を示します。
- * : 西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、2022 年後半から 2023 年 10 月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが (青矢印) 、その後火山活動によると考えられる変化は認められません。

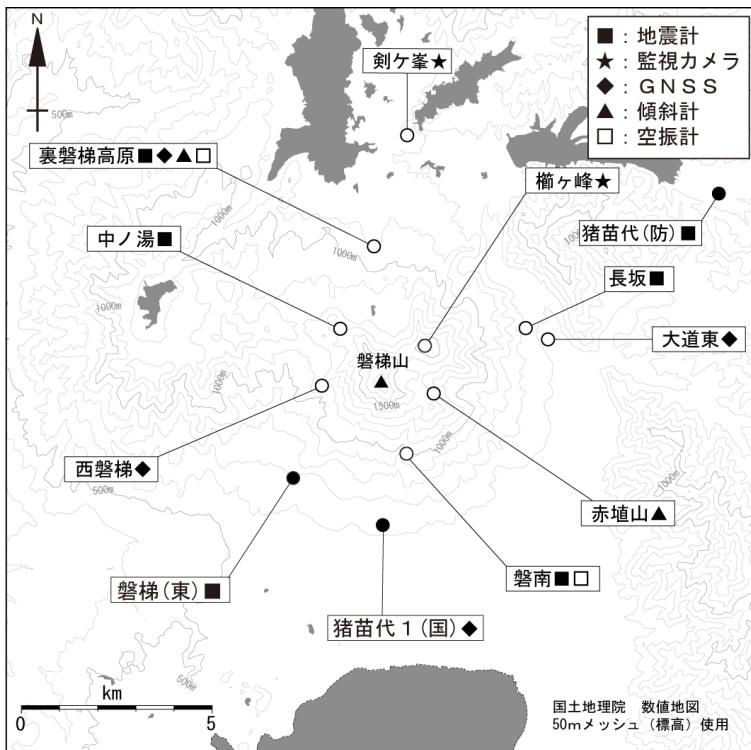


図 17 磐梯山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学

(防) : 防災科学技術研究所

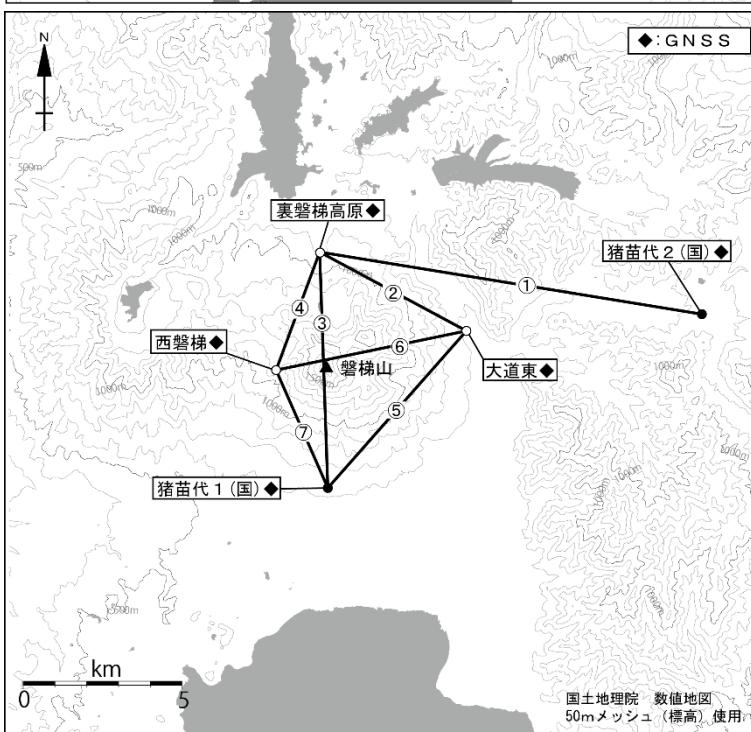


図 18 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院

表 1 磐梯山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	磐南	37° 35.04'	140° 04.79'	1000	-1	1965.07.01	
	長坂	37° 36.84'	140° 06.93'	650		2005.12.08	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	-98	2010.09.01	
	中ノ湯	37° 36.83'	140° 03.59'	1320	-2	2016.12.01	広帯域地震計
空振計	磐南	37° 35.04'	140° 04.79'	1000		2000.11.02	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	3	2010.09.01	
傾斜計	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	-98	2011.04.01	
	赤埴山	37° 35.90'	140° 05.27'	1297	-15	2016.12.01	
GNSS	大道東	37° 36.68'	140° 07.34'	582	3	2015.11.13	
	西磐梯	37° 36.01'	140° 03.26'	1185	4	2000.09.07	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	4	2010.10.01	
監視カメラ	剣ヶ峯	37° 39.58'	140° 04.77'	810	5	1996.04.01	
	櫛ヶ峰	37° 36.58'	140° 05.12'	1635	3	2016.12.01	可視及び熱映像